

発行：2014年2月5日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャントイ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0221 山口市大内矢田北3-9-1 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

、日、祝日を除く)

2014年(平成26年)
2月
3日
第17210号

日刊新周南

THE DAILY NEW SHUNAN

発行所/株新周南新聞社
〒745-0802 周南市東區二葉原1035-18
電話 (0834)26-0303
FAX (0834)26-0155
購読料 毎月2,300円
(本紙価格/2,195円・消費税105円)
年間購読料 年/23,000円

購読のお申し込みは
この新聞社へお申し込み
ください
0120 494689
ホームページアドレス
<http://www.ccsnet.ne.jp/~nikkanss/>
Eメールアドレス
nikkanss@ccsnet.ne.jp
山口通信部(山口県庁県政記者会内)

タイで少数民族支援の学生寮 現地へ記念スタディツアーも

周南
山口

シャントイ学生寮と寮生



山口県を地盤にタイでシャントイ学生寮の運営などを通してモン族など少数民族への教育支援事業などを統括している周南市のNPO法人シャントイ山口(角直彦代表理事)が、九九九年(日)三月の発足から二十周年を迎えた。二月二十日から十八日まで代表(66)らが記念のスタディツアーで支援先の村を訪れ、学生寮の運営の自立に向け現地での山を購入、栽培に適切な作物を見つけるためマンゴーやコーヒなどの試験栽培を始めている。



角代表

シャントイ山口は同会の山口県支部的な活動が、きつかけに周南市久米の原江寺の任職で曹洞宗国際ボランティア会事務局局長、専務理事を務めて活動の中心になってきた。有馬実成さんを代表に発足。金銭的な支援だけでなく、現地の人と汗を流すことを基本に活動し、北

シャントイ山口が20周年

調査活動を始めた。九九九年(日)にはシャントイ学生寮を開設し、最初は借家だったが、現在も使用している。教育支援活動を始めた。有馬さんは二〇〇〇年(日)に亡くなったが、周南市上下の海印寺住職だった角さんが代表を引き継ぎ、〇一年(日)に特定非営利活動法人として山口県から法人認証された。タイでは現地法人のシカ・アジャ財団と協力し、学生寮の増築など活動を発表させる一方、〇五年(日)には大小便から出るメタンガスを燃料にし、残った汚物を植物の肥料にする自然循環式エコトイレを開発。一緒に住んでいる村民と一緒に活動する活動も始めた。この間、毎年のようにスタディツアーを企画し、徳島太田などの学生も参加した。また県内では写真展を開いて活動を紹介してきた。

入寮選考は、希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到

希望者殺到



20周年記念の農場

シャントイ学生寮は日本の中高校生にあたる年齢の四十七人が生活しながら学校に通っている。自立を促すため子どもたち一人一人に自分の裁量で作物を作る畑を持たせてほしいという思いを込めて、また独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金からの助成で少数民族出身の五人が現地スタディツアーとして活動している。

シャントイ山口からはタイでの活動に協力し、年間二百五十万円の資金援助を続けている。現在山口県曹洞宗青年会がその大きな柱となっており、角さんも同会の支えがなければ活動を持続できなかったという。今回のスタディツアーにもシャントイ山口の七人のほか青年会から二人が同行。二十日に福岡空港から出国して翌日、シャントイ学生寮に到着して一泊し、その後、自動車で移動して三十日に曹洞宗国際ボランティア会が曹洞宗の開設を支援した東北タイのパンサワイ村を訪れ、世界遺産の「スコータイ・アプ・アプ」を見学。パンサワイでは、差支や橋の上理める反対。また日本からの支援に頼って現況から経済的にも自立して運営する上を目指した。その後、一図書館などは村に移設されて日本の支援から離れた。角さんも二十年前より文化、生活習慣の違いを乗り越えて支援を続けていると見たと目は豊かだ



現在のパンサワイ村

訪問 30年前支援のパンサワイ村も、一方、パンサワイ村は30年前、道路を作ったため池を掘り、植林を進めて村人の生活の向上を目指した。その後、一図書館などは村に移設されて日本の支援から離れた。角さんも二十年前より文化、生活習慣の違いを乗り越えて支援を続けていると見たと目は豊かだ

時のSVAの現地スタッフは同村出身のティラボンさんが自分の村で活動できたらいいだろうかと日本から話を聞いた。それから始まった。ティラボンは現在は同村に住んで図書館などの活動を見守り、村などに移住して日本からの支援が途絶えたらと継続できないという心配もしている。活動の中心となった人たちは、角さんと再会を喜びあった。見違えるようになった村の姿に角さんも「こんなになつたのかとうれしかった」と話している。



学生寮の寮生たち